

さくらの便り



秋田駒ヶ岳（ムーミン谷）撮影：元神明中 T.Sさん

今年から「さくらの便り」紙面をリニューアルしました。さくらのカットは二〇一五年春、ハイキングで行った秦野戸川公園でのM・Tさんのスケッチです。

「この便りが届くころには、

ウクライナ攻撃を終わりにしてほしい」

このところ、いろいろな場面で、広告・宣伝の力のすごさを感じています。

「福島、その先の環境へ」「食べて応援」などなどのキャッチコピー。広告代理店の力を駆使して心の操作が行われてきたと思う・・・と福島の武藤類子さんは言っています。

ウクライナをめぐるでも「情報戦」。互いに正反対の情報溢れています。なぜ、どのような経過で戦争になってしまったのか冷静に考えなければ、どう終わりにできるのかもわからないのに・・・（印刷される頃は終わっていてほしい）

そして改憲。広告規制がないそうですね。具体的には発議されればCM枠が護憲側にはほぼゼロだとか！

洪水のように与えられる情報次第で、私たちの脳はどこにでも連れて行かれてしまうのでしょうか？

三月二十五日記

杉並区堀ノ内在住



「あいつかへ行きたい… ねっ、あいつかへ。」

新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しているスポーツジムのおかげで、ほとんど毎日ジムに通い運動をしている。

そのジムが一年に一回、施設点検及び補修工事を行うため、五日間休館になると知らされた。

さて、五日間も運動ができずどうやって過ごそうか。そういうえばコロナ禍になってから旅行に行っていない。今の時期スキー場は？ と思い、友だちに開くと、「雪は多いし空気はきれい。人が集まる場所（食事・乗り物など）に気を付ければ大丈夫。」と言われ、早速いつも予約をする旅行会社に行った。けれどもあるはずの営業所がない。聞いたら閉店したという。他の旅行会社も閉店と張り紙されていた。旅行業界もコロナ禍で苦しいんだなあ、と実感し帰ってきた。

遠くへ行くことはあきらめて毎日乗っている自転車（通称マチャリ）で近場へ行くことにした。

ポタリング（目的地を決めないで、気分や体調に合わせて近郊を軽くサイクリングすること）にしようと思った。

▼一日目 東中野在住なので、上高田・新井薬師周辺。よく知っている道なのでなるべく通ったことのない道を選んで走った。

▼二日目 山手通りから池袋へ。鰻が好きなのでいくつかの老

舗を確認し、コロナ禍が終わったら食べに行こうと決意。

▼三日目 新宿から代々木・千駄ヶ谷へ。新国立競技場、オリンピック記念館、神宮球場、秩父宮ラグビー場そして、将棋会館。新国立競技場は一九六四年を思い出しながら辺りを見ながらゆっくり走った。

▼四日目 練馬区光が丘公園。広い団地の中にはレストラン、買い物すべてがそろろうお店、病院、運動施設などがあり、便利な所だなあと考えた。

毎日大体三、四時間程度のポタリングであったが、お金を使わず三密にならず、夫婦二人で楽しいポタリングを行うことができた。疲れはしたがまたどこかへ行たいと思った次第である。

中野区東中野在住

戦争、コロナ、ストップ！

緑の野山に、みんなでハイキングに行きたいです。

練馬区立野町在住



「樹木の命の数合わせはできません」

神宮外苑の再開発計画案が、今年二月九日、都審議会で認められた。（添付新聞参照） 一帯の樹木を一〇〇〇本近く（九七一本）伐採して、その後に高層ビルや商業施設を建てるという腹立たい気持ちでいたところ、その件について、三月二日の朝日新聞「声」欄に高校生の素晴らしい投稿を目にしました。計画の見直しを求めて署名活動を始めたということ、最後に次のように結んでいました。

『二月二十二日の都議会の代表質問で、小池百合子知事は、伐採の見直しには触れずに「新たに緑を創出」と発言しました。しかし、自然保護とは人間にとって便利な自然を新たに植栽などで作ることでではなく、現存する緑をまず守ることで、樹木の命の数合わせはできません。』

杉並区下高井戸在住



お便りいつもありがとうございます。
コロナでなくても、家で夫と長時間一緒にきついです。なるべく外に出ることや、気分を変えるようにしています。

杉並区和田在住

※「きつい」読みかえれば、それだけ「近い」こと。
「親しい」とも書きます。

係より

「孫がコロナになった！騒動記」

二月末に二年生の孫・KHが夕食後に嘔吐しました。二日前に六歳の弟が吐いて腹痛を訴えたのですが、病院では『急性胃腸炎』の診断でした。弟は発熱もなく次の日から元気になったので、心配もせず、弟と同じだろうと思っていました。

翌日、四十度の高熱になり、近くに開業したばかりの小児科病院に行きました。幸い発熱外来ですぐに検査してもらい、コロナ陽性が分かりました。学校に電話すると『担任がお休み』で、養護教諭が電話に出て、「今週いっぱい学級閉鎖になります」とのことでした。

高熱は二日間終わり、元気になりました。しかし、家族は

『濃厚接触者』ということでした。家は廊下でつながる二世帯住宅なので、それまで一緒にしていた夕食を別にし、お互いに用事があるときは、マスクをして消毒をしながらの生活でした。幸い他の家族は無症状でした。家でも食事以外はマスクをし、買い物はマスクを二重にして、無言で買える生協に行きました。子どもたちは元気になっても、外で友だちとは遊ぶことができず、体力を持て余してしまうのでどたばた暴れます。家の前の私道で縄跳びなどをさせたりしました。

困ったのは、父親です。美容院を経営しているので、すべての予約客に断りの電話を入れ、十日間は仕事ができませんでした。客商売ですから収入はゼロです。この二年間、コロナのために座席を半分にしており、コロナでお客が減っているなどで、それまでも収入は40%減だったと言います。幸いもう一人雇っている美容師がいるために、店を閉めずに済みました。

新聞などで見ていたことが現実になってみると、まずは一学級当たりの児童生徒の定数削減が急務であること、業者への、休業・減収分補償を十分にすること、軍事費を減らして徹底したコロナ対策で、国民の命と生活を守るなどの緊急性を痛感しました。

杉並区高円寺南在住



「コロナの顛末」

「A子がコロナに罹った」

息子から妻A子の感染を伝える報が舞い込み事態は一変、辺りに緊張が走る。不運なことにA子は妊娠八ヶ月に入っていた。そして翌日はワクチン接種の日であった。

息子は、二人の幼子の世話と感染中の妻の看護、四人分の食事の用意とテレワーク、これを一手にこなさねばならない。「家に食事を差し入れてくれないかなあ。それから子どもたちの世話も・・・。」SOSの言葉が重い。しかし、電車を乗り継ぎ息子の家まで片道一時間半以上もかかる。妻も私も難色を示した。

翌日、全くの無症状だが下の二歳になる孫の感染も判明した。

A子は猛烈な喉の痛みと筋肉痛で、相変わらず臥せっているという。息子は、「もう限界だ!」と言葉を荒らげた。子どもたちは狭いマンションの中に終日閉じ込められ、保育園にも行けず、友達にも会えない。A子の病状などお構いなしに家の中を駆け回り、息子はとても仕事どころではない。濃厚接触の身では、食材の買い出しなどもままならない。電話の音が割れるほどの大声で息子は訴えた。

ほどなく息子から窮余の一策が!

それは、私の妻が近くのシティホテルに宿泊しながら、毎日

息子宅まで通い、食事づくりと孫の面倒などをみるというものだった。幸い妻は、三回目のワクチン接種を終えており、基礎疾患もない。二日後からの救援にいくことを承諾した。

「助かった！」先の見通しがついた息子の安堵した様子が伝わってきた。

二日後、妻は戦場へと赴くと、頭にはヘアークャップと二重マスクにフェイスシールドをつけ、さらに雨合羽にゴム手袋という完全防備で四日間の任務をこなした。

物々しい格好だが孫達は突然現れたバアバに大喜び。上の孫は、ソーシャルディスタンスもとり、食事作りや後片づけの仕事を喜んで手伝った。下の二歳の孫はすぐに「だっこ」や「スキんシップ」を求めてきた。幸いにも、こうした食事作りの合間の孫との関わりが、妻の張りつめた気持ちを和らげてくれた。妻の一日は、朝はゆっくりホテルを出発すると、まずはスパーで買い物をしてマンションに直行する。真っ先に例の完全防備を整え、食事作りと孫の相手をして夜にはホテルに戻る。

この日課を四日間繰り返した。だがその間にも上の孫が感染。さらには息子が感染。家族四人全てが感染した。感染対策を徹底したつもりでも、幼子のいる家は、全員が感染してしまうのだ。間が悪いことに、息子は感染判明の日が三回目ワクチン接種予約日であった。

四日間の支援を終え、やっと妻は帰宅の日を迎えた。

途中で息子が予約してくれたPCRセンターに寄り、検査を

終えて帰還。五時間後に「陰性」の結果が携帯に届いた。

コロナは全く気づかぬうちに、平和な家族の日常を突如として奪い去り、不安と混乱と恐怖の日々に突き落としてしまう。

それにしても、あと一ヶ月早く国がワクチン接種に舵を切っていたなら、今回の我が家の不測の事態は避けられていたと思うと、残念で悔しくてならない。国や行政の支援があまりにも杜撰で遠い。「自己責任」という無責任で無慈悲な言葉で多くの国民が切り捨てられてはいまいか。

十七日間の長きにわたる自宅待機・隔離期間が明け、二人の孫は保育園に元氣いっぱい登園した。園庭で遊んでいた同じクラスの子が「あー！S君だ！」と孫を見つけると、先生と一緒に駆け寄ってきた。「会いたかったぞー」とハグされると、孫は嬉しそうな恥ずかしそうな何とも言えない幸せな顔でクラスの方へ歩いていった。

「平和外交を」

逃げまどうウクライナ市民を見て、戦争の実相を想う。自衛のためと始まり、軍事施設のみを攻撃と言って無差別殺りく。諸国民の公正と正義を信じるしかなく、そのための平和外交を！

杉並区浜田山在住

「はやく戦争の終結を！」

いつもお世話になります。

テレビをつけるとウクライナの悲しいニュースばかりです。早く戦争が終わることを願うばかりです。

私は、早朝、家の近辺を三十分程歩いていきます。さくら会のハイキングに行きたいです。

杉並区天沼在住

「命は継がれていく」

「あれから一年?!」と、杉退教からの便りが届いた時に驚いた。『チコちゃんに叱られる』で『子どもに比べて大人の一年が早いと感じるのはなぜ?』の答えが、『大人の日々は感動が少ないから』だったと思う。確かに!と納得してる。この一年、怒ることは多くても心揺さぶる素敵な出来事にはあつていないように感じる。出かけることがめっきり少なくなったからだなあ。

先日、Aさんから、植木鉢で小さな白い花のつぼみをつけているクリスマスローズの写真がラインに送られてきた。身の丈二十センチぐらいかな? 昨年Bさんからもらった十センチぐ

らいの苗がここまで育つたのよ、と言う。実は、一緒に私ももらっていた。でも、私のはまだ花芽がついていない。一年間のお世話の違いだ。うん、そうだね。来年は我が家にもBさんからもらったクリスマスローズの花が咲くようにお世話しよう。楽しみだ。

我が家には、濃い紫色のクリスマスローズが二十ほど、今満開に咲いている。これは、十年前のことだが、非常勤教員で三年間勤めた桃五小の最後の日に、主事さんが「欲しいって言っていたよね。」と、種から育てていた十センチほどの苗を二つくださったのだ。そのことを思い出し、もとはたった二つの苗が株を増やし、こんなに花を咲かせてくれた。あまり日も当たらず世話もせず、なのに、懸命に育ってくれた。思わず「ありがとね」と言ってしまった。(笑)

先述のBさんの家に遊びに行ったとき、リビングに青々としたポトスが2, 3鉢置いてあつて、とても涼しげに感じた。「上手に増やしているね」と言ったら、「あら、S小にいたときに、あなたが教室で育てているポトスを少し分けてもらったじゃない。それよ。」と言う。私はすっかり忘れていたが、そういえば、図工専科の彼女は図工室でたくさん植物を育てていた。S小を去ってから十三年経つ。その間に、ちっぽけなポトスの葉っぱは、こんなに立派に、しかもたくさん株を増やして育ってきていたのだ。

ここまで書いてきてしばらくして

(夫) が亡くなった。

癌が全身に広がって、自宅で緩和ケア体制でいたが、最後は誤嚥性肺炎だった。毎日のように訪問看護師や訪問ドクターにお世話になり、少しずつ覚悟はできてきた。聞こえているのかわからないが、たくさん話しかけた。楽しかったこと、嬉しかったこと、そしてありがとうとごめんなさいも……。葬儀も終わり、足元のフワフワした感じがしなくなってきた。少し落ち着いてきた。やるべきことを一つずつこなしているうちに、ふと気づいた。『夫の命は息子や孫に継がれている』：そう思うと、姿が見えなくなつて寂しいけど『居るんだ』と思える。そして、友だちと、夫との思い出話をしていると、『その人の心の中に夫は居るんだ』と思える。

クリスマスローズやポトスと一緒にではないけど、この思いを大切にしながら充実した日々を過ごして自分の命を使い切ろう。私の命も継がれていくんだから。夫がそばで見ているんだから……。

でも、しばらくは『いのちの歌』は歌えない。

杉並区高井戸東在住



「てぶくろ」

私の娘たちが福音館の絵本『てぶくろ』を喜んでいて、その絵本の表紙に「ウクライナ民話」と書いてありました。孫が、「ロシア民話」と口にしていたのですが、この頃のウクライナとロシアのことをご存知の方がいらしたら知りたいのですが……。教えてくださいませんか。



国分寺市西本町在住

「子どもって凄い」

この三月二十二日から四月四日までのアンデパンダン展にろうじて出品することができました。

それはともかくとして、三月十二日、I小学校へ絵手紙のボランティア授業で呼ばれました。

一年生は三クラスなので、Yさんと新婦人の応援を得て、三人で担当しました。

題材は「運動靴」。墨汁で線を描き、彩色はクレパスにしました。靴は難しい題材なので、一年生にとって果たして?と、

ハラハラ、ドキドキで授業をすすめました。でも、みんなみごと挑戦！「もう、一年坊主ではないんだ」という心意気を見せつけられました。

でも、この後は私の失敗談。

「大体満足に描けたと思う人は？」と質問したら、ほとんど全員の手が上がりました。ちよつと気になっていた子も手上げたので、私はすっかり嬉しくなりました。でもその次もうひと声「思うように描けなかった人は？」と聞きそこなっていたのです。後でしまった！と思っても、後の祭りです。もし「思うように描けなかった」という子が一人でもいたらと思うと、悔やみきれません。

それにしても、子どもって凄い！

杉並区善福寺在住

「こんな無法は許せません」

ロシアのウクライナ侵攻から一か月。なかなか攻撃が止まりません。テレビを見ていられません。女性や子ども、お年寄りの姿が目には焼きついています。こんな無法がまかり通ってよいのかと憤っています。

新宿や代々木公園の集会に参加したり、デモ行進に参加して



います。沿道から飛び入りで入ってくる若者や、手を振ってくれる人もたくさんいて励まされます。カンパを送ったりしています。居ても立ってもいられない気持ちになります。早く攻撃を止めると祈るばかりです。

中野区中央在住

「他人事でないウクライナの現実」

終わりの見えないコロナ禍の中で、人とのつながり、何気ない日常の生活、命の大切さなど、いろいろ考えさせられています。さらにロシアのウクライナへの軍事侵攻に毎日心を痛めています。

私たちの生活は、平和の上に成り立っていると実感しています。ウクライナの子どもたちが涙している顔、武力によって命が奪われたり、家族が離れ離れにされたり、爆撃で家や街が壊されたりしている映像を見るのは、辛くて心が痛みます。ロシアのウクライナ侵攻が早く終わってほしいと毎日祈っています。他人事ではないと感



じています。

今年も、平和を守る運動、憲法9条を守る活動や核兵器廃絶の署名運動には積極的に参加していきたいと思っています。

武蔵野市境南町在住

「春・という気持ちとうらはらに」

コロナ渦の中、ニュースづくりなど・・・本当にご苦勞様です。お世話になり、ありがとうございます。

二〇二二年もあつという間に三月に・・・春という気持ちも出てくる中、三月は、心重苦しい事柄に・・・。例年になく、「戦争中止!!」「ノー原発、ノー核兵器」と叫んでいます。が、集会にも出れず、もんもん・・・と。

先日機会があり、神奈川・松田町の河津桜と菜の花を見に行きました。何年前かに皆さんとハイキングで一緒にしたことを思い出しました。日々是好日”を目標に生活したいと思っています。

渋谷区恵比寿在住



二〇一四年三月九日
八年も前でした。係

「あと少し 演教連代表がんばります」

いつもお世話になっております。

収束（終息）しないコロナ感染に、ロシアのウクライナへの軍事侵攻・・・と大きな問題に対し何ができるのか？と無力感さえ感じてしまいますが、こういう時こそ知恵を出し合うのが、人間!! と自分に言い聞かせています。（正直 怒りとストレスでからだが悲鳴を上げていますが）

（一般社会法人）日本演劇教育連盟の代表として、あと少し？研究と実践を展開することになりそうです。いま作成中の企画チラシ、同封します。

学校（子ども先生も）大変ですネ。

東久留米市滝山在住



A colorful poster with Japanese text. At the top, it says "ICTが広がる社会で、演劇教育が果たす役割". Below that, it says "〜学校を舞台に！人間性あふれる文化的な活動を子どもたちに〜". The poster includes details about a performance on June 9, 2022, at 14:00-17:00. It lists the organizing committee members: 大塚 裕子, 山崎 浩一, 山崎 浩一, 山崎 浩一, 山崎 浩一. At the bottom, it says "一般社団法人 日本演劇教育連盟 (公益)" and provides contact information: 〒114-8501 東京都目黒区目黒4-2-1 第一演劇会館2F, 電話 03-3484-6161, Fax 03-3484-6162, Email info@nippenteki.org.

「楽しかったお手伝い」

久しぶりに支部事務所で「異動特集号」・「ようこそパンフ」などの発送のお手伝いさせて頂くことができました。なつかしい面々と、なつかしい作業。

近況報告もして花が咲き、とくつても楽しいひとときになりました。

現役の方々の大変な状況を思うと、やらせていただけることがはやらないと！と、強く思いました。皆様おつかれ様でした。

小平市天神町在住

「ジェンダー平等とケア労働 & 家事・子育て・介護」

三月八日は、国際女性デー。今年はコロナ対応のため、オンラインで開催された。

講 演：岡野八代さん（同志社大教授）

テーマ：「ケアをするのは誰か？ジェンダー平等社会の実現を」

◆ その講演内容を紹介します。

現在、冷蔵庫などの電気製品やプラスチックごみの処理は企



（おとし）められている」と表現する。ケアが社会から低く評価されているということ。

保育園や介護保険制度が社会化されたことはいいことだが、ケアが正しく評価されず、貶められた状態なので、賃金はほかの職業よりダントツに低い。男性の保育士が増えたとし、介護の現場でも大勢の男性が働いているが、それだけでは賃金は上がらない。ケアを正しく評価してそれに見合う賃金と権利を保障することが必要だ。それこそがジェンダー平等のへ一歩。

上記、講演のほんの一部を紹介しました。「ケア」を企業の儲けに必要な経費と考えると、正当に評価されたらどんなにいいことでしょう。

コロナで多くの女性の苦しみあらわになりました。ステイホームのDVで行き場をなくした少女たち、非正規で仕事を失い子どもに食べさせるご飯にも事欠くシングル女性の女性たち、そして、自殺の多さ。ステイホームの結果、食事作りなど家事負担もあ

Me too やフラワーデモなど ジェンダー平等への意識と行動の変化起きている今、国会では男女の賃金格差をなくすために、日本でも企業に「男女賃金格差」の情報公開を義務づけが論議され、やっと動き始めました。

ジェンダー平等は、一人一人の人権を大切にすることです。私たちは、ずっと前から「一人一人の子どもを大切に！」「どの子ども大切に！」をスローガンにつながってきました。それをもっともっと広げ進化させるために、学び合い声を掛け合って、力をわせましょう。

(YouTubeで配信中。「2022国際女性デー中央集会 岡野八代」で検索してみてください。)

調布市深大寺元町在住

「組合の力に支えられて」

三月末で、定年退職しました。この二年半は、介護が大変で、いつ辞めようかと常に思う状態でしたが、介護休暇、短期介護休暇、介護時間と、制度を最大限活用して、何とかのりきりました。組合を通して、都に働きかけ、制度の充実をはかってきたお陰です。

執行部の皆さん、いつも時間度外視で



働いてくださりありがとうございます！

杉並区久我山在住

*Iさんは杉退教の新しい仲間です。この四月から、S小はじめ三校で、区の任用職員（専門職）として勤務されています。今後ともよろしくお願いいたします。（係）

「みなさん・よろしく」

十年目にしてようやくの参加で、お仲間入りさせて頂きます。よろしくお願いいたします。

昭島市玉川町在住

*こちらこそよろしく。（係）



「そこそこ いい歳に…」

実家から引き取った母九十八歳と、主人八十八歳が首のケガで旅立ち、コロナで休みだった墓地も始まり、昨年五月、やっと二人を御先祖様のもとに送りました。ほっとしたせいか…自分も八十三歳そこそこいい歳か、ほけてすぐもの忘れて困っ

ています。まだ、来年位は大丈夫と思いますが、会費がなかなか届かないときは主人のもとへ旅立ちかと思ってください。よろしくお願いします。

川崎市多摩区在住

「コロナ禍三年間の中学生は…」

コロナ禍の中、三回目のワクチンを終え、タニタの運動施設に連日通うのみの日々を元気にすごしております。

およそ三年のコロナ禍。中学生にとっては入学から卒業までずーっととマスクで、行事なしだったのでしょうか。心が痛みます。

ロシアのウクライナ攻撃を一日も早く終了させたいです。

板橋区小茂根在住

「嬉しいスキー上達」

三年間、スキーを休んでいて、もうやめてもいいかなと思っていたのですが、友達と一緒に行くこうと誘われて、なんと、今シーズン五回も行くことになりました。五十年間万年二級、全然上達しなかったのに、回を重ねるごとに上達！？（教えて下

さる先生のおかげです）七十歳を過ぎても上達するんだ！と嬉しくなりました。

仕事も趣味も、続けられる限度まで「退職」を意識しないで続けます。それが健康でいられるコツだとか。四月からも今の仕事が続けられるので、若い先生方の応援として支えていきたいと思えます。支えられるのは、実は私ですが。若い方々から元気を頂いて、「H先生、いつも若いですね」というリッパサービスを本気で喜んでいる今日です。

小平市津田町在住

「第二次世界大戦から何を学んだのか！」

ロシアのウクライナ侵攻、マリウポリの包囲で、イワノフ作『900日の包囲の中で』を思い出しました。第二次世界大戦下の1941年6月、ドイツ ナチスがレンングラードを包囲

したときのことを書いた児童書です。

この時、ショスタコービッチは交響曲第7番「レンングラード」を作曲したわけですが（レーニン賞受賞）現在、まったく逆のことが行われているわけ



です。兄を亡くし、母も死体とまちがえられて、葬られようと言われたというプーチンは、何を学んだのだろうと怒りがこみあげてきます。

小平市上水本町在住

「大宮公園・見沼たんぼ」

昨年末、さいたま市に引っ越しました。近くには大宮公園などもあり、散歩には事欠きません。見沼たんぼや見沼代用水もあり、玉川上水同様、治水工事の賜物をまた一つ、目の前にすることができました。

さいたま新都心のビル群を尻目に、地元の人々の努力によって残された自然が、脈々と守られています。

ウクライナの戦争を心配しつつ、第二次大戦の日本軍の犯した罪状についても、改めて重ね合わせて考える日々です。

さいたま市植竹町在住



「杉並支部ニュース機関紙コンクール入賞」

杉並支部の事務所で書記の仕事をしています。都教組の委員長は杉並支部出身の木下雅英さんですが、今は専従委員長です。都教組委員長という極めて責任の重い、しかも激務のところを送り出したからには、後は知らないよとはいきません。送り出した責任もあると、杉並支部で応援しようと思ってきました。しかし最近、十分な応援もどこへ行ったのか。「これも健康のため、自分のため」なんて思うことが多くなりました。いやはや…。

さて、このほど、都教組の「2021年度機関紙コンクール・支部機関紙の部」で、杉並支部が優秀賞に選ばれました。ありがたいことです。応募したのは2021年に発行したNo.1からNo.4までの分でした。コロナ禍の中で、職場の声や組合の取り組みを報じたものです。オリンピックやパラリンピックの観戦動員も大きな問題で取り上げました。

これらはホームページでご覧いただけますので「都教組杉並支部FC2」で検索してください。その時、他の項目もぜひご覧ください。実に楽しいものがいっぱい見られます。

この支部ニュースの作り方は、元はと言えばTさんから教えていただいたものです。今もまだまだ未熟で、至らないことばかりですので、ホームページにはいつもTさんに手を入れてい

ただき、見栄えのするものにしていただいています。

杉並支部のホームページはスタート時（2002年）から現在まで（20年間）Tさんが《編集長》になっていきます。都教組の数ある支部の中でもその出来栄えはピカ一です。自身の多彩さ、見やすさ、きれいさ、更新の新しさ。職場の教育実践にも役立つものもいっぱいあります。教職員組合の場合、異動や退職などで運動はもちろんホームページも継続することは本当に難しいのですが、杉並支部はTさんのご尽力で途切れることなく今に続いているのです。そして、退職されてもおお元気で思いを寄せ、ご支援いただいている皆さんのおかげでもあります。

三鷹市牟礼在住

「近況は落選川柳で・・・」

どうもあちこちこそばゆいと思つたら、前掲のMさんの文章のためとわかりました。

「ではまた、落選川柳」

- ◇ またやったマスクしないで引き返す
- ◇ 出囃子は太鼓の音のみ老いの耳
- ◇ 補聴器の助成出ぬうち進行し
- ◇ 村の渡しの船頭さんは今年六十の若い人
- ◇ 腰痛はペタン湿布のおまじない



◇ 六の波あとおだやかな海原に（願うだけか）

◇ キヤタピラの地響き耐えるシエルター

◇ 七十と七年経つてまた悪夢

お粗末でした。
杉並区本天沼在住

「落選も入選もありません」

焼酎も、有名人のお墨付きや全国的に売れているもののおいしいとは限りません。それと同じで、入選も落選もありません。私はこのごろ昔漬けた古い果実酒を床下からひっぱり出して、炭酸で割って飲んでいきます。

四・五月頃、伊豆大島のジオガイドの資格が交付される予定です。
杉並区下井草在住

*杉退教たより・三月178号の「落選川柳」への「励ましの言葉」とお受けしました。焼酎や梅酒に例えての慰め、ほろりとします。伊豆の大島、高校一年生のとき、学校には無届で、友達20人ほどで行ったことがあります。大しけで「菊丸」が大揺れ。元町に接岸できず、岡田の岸壁を波が止んだとき走って上陸？しました。御神火茶屋から見た火口丘、あんこさんに一目ぼれ、今も思い出します。T

「あたたかい応援をお願いします」

皆さまには、いつも《杉並ぞうれっしゃ合唱団》を応援していただきありがとうございます。

今年はぞうれっしゃのコンサートをさくら会の便りでご案内することができ、とても嬉しく思っています。

コロナ禍のため数々の困難がありました。一昨年は無観客で、昨年は五十人のお客様でミニコンサートを開催することができました。その中で仲間とのつながりの大切さ、音楽は無くしてはならないもの、と再認識することができました。

今年はお客を増やしてのコンサートを予定しています。

命と平和が脅かされている今こそ「ぞうれっしゃ」のメッセージを多くの方にお届けしたいと願っています。
(たより179号参照)
ぜひ、あたたかい応援をお願いします。

杉並区宮前在住



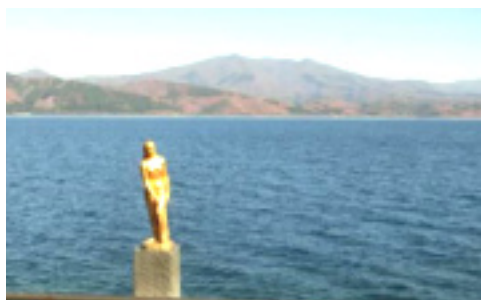
【写真】昨年11月7日（日）浜田山会館での「杉並ぞうれっしゃの集い」です。50人の合唱団、お客様49人。二列目は杉K小の子どもたちです。

8人が参加。担任のM先生が「ぞうれっしゃ」を教室で歌い、繋いでくださっていました。残念ながらこの三月に定年退職。四月から台東区で産休代替をなさっています。

《一ページの写真・ムーミン谷…について》

秋田駒ヶ岳は、秋田県仙北市と岩手県の境に位置し、複数のピークで形成されている活火山です。田沢湖からは対岸方向に見ることができます。その男岳の南東に延びる「馬場の小路」と呼ばれる谷間は「ムーミン谷」とも呼ばれる人気スポットです。木道の上を歩きながら気持ちよく散策できます。最初にこの名をつけたのは学生のアルバイトのサブレンジャーたちで、この谷が、アニメ「ムーミン」に出てくる「ムーミン谷」とそっくりだったというのが由来のようです。この「ムーミン谷」の呼び名が、いつしか登山者の間に広まっていったのだ・・・とこのようになります。

ネットに出てくる数あるムーミン谷の写真と比べても、T・Sさんの写真が一番素晴らしい！



田沢湖（たつこ姫像）から見た秋田駒ヶ岳

ウクライナ

ウクライナは滅びず

編曲：山崎洋介
作曲：ウクライナ国歌

はいこころにウクライナは滅びず
よもいふ事もなくウクライナは滅びず
こころにウクライナは滅びず
よもいふ事もなくウクライナは滅びず
ウクライナは滅びず
ウクライナは滅びず
ウクライナは滅びず
ウクライナは滅びず



【編集後記】

今年も、皆さんからたくさんさんの近況報告やエッセイなど寄せていただきました。ありがとうございました。どうぞございました。

編集していて感じたことは、多くの方が、二月二十四日に始まった、ロシアによるウクライナ侵攻についてふれられ、心を痛めていらっしゃることでした。また、依然として、姿を変えながら、私たちの足元にまで迫りくるコロナの影響です。読んでいて、心打たれるものがありました。こうした困難な状況の中でも、新しい発見や挑戦で、日々の生活を切り開いていく力強さも感じる事ができました。今年の文集は、歴史の一ページとして保存したいものとなりました。

編集にあたっては、手書きの文章をワード入力する作業を、Hさん、Mさん、Kさんの力もお借りしました。

校正はしたつもりでも、文章のどこかにミスが隠れていると思います。その折はどうぞご指摘の上、ご容赦ください。

T・T

杉並区退職教職員の会（さくら会）

都教組杉並支部内 〒167-0031 杉並区本天沼1-2-19

Tel 03-3399-8719 Fax 03-3399-3855

HP <http://tokyousosuginami.web.fc2.com> または 都教組杉並FC2 で検索